令和８年度ひょうご事業改善レビュー　外部委員会意見

【第１回　外部委員会（８月 21 日)】

事業名	主な意見
企業の女性活躍推進に向けた女性活躍推進専門員による支援充実 〈県民生活部〉	**・企業トップへの働きかけの効果について** セミナー開催回数の増加は評価できるが、実際に経営者の意識変化や行動変容につながったのかが重要である。 特に人手不足が深刻化する中、女性活躍推進が人材確保につながるという認識を経営者が持ったかどうかを把握することが大切ではないか。 **・アウトカム指標について** 女性管理職比率というマクロ指標と事業効果を直接結びつけることは容易ではない。 **・ミモザ企業の好事例共有について** トップセミナー後には、女性社員との対話会実施や階層別研修の強化など、企業内で具体的な変化が生まれている事例がある。 ミモザ企業が実際にどのような取組を行い、成果を上げているのかについて、さらに情報発信や横展開を進めることが重要である。 こうした成果を見える化することで、企業経営者の理解や行動変容につながることが期待される。 **・事業全体に対する評価** Ｒ５レビューで指摘された内容に対し、具体的かつ着実な改善が行われている。 経営者への働きかけ、ミモザ企業の拡大、人材確保支援、研修実施など、各事業が相互に関連しながら展開されている点を評価したい。 女性活躍推進専門員という相談窓口が県に存在すること自体が、中小企業にとって大変意義が大きい。
モデルプロジェクトの継続性向上 〈産業労働部〉	**・公共調達率の高さについて** 本事業の成果として公共調達率が高いことは評価できる。その背景には、①補助金額そのものではなく「県事業に採択された実績」、②自治体との実証実験実績、③行政との協働実績による信用力の向上があるのではないか。スタートアップや中小企業に対しては、補助金額以上に「信頼性の獲得」が重要なメリットであることを積極的に発信してはどうか。 **・公共調達後の民間展開について** 公共調達による信頼獲得は重要であるが、最終的には民間市場へ展開し、自立的な事業成長につなげることが重要である。 県と神戸市が連携してスタートアップ支援を進めている現状は非常に良い流れであり、今後も公共分野から民間市場への発展を意識して事業を進めてほしい。 **・事業スキームの評価** スタートアップが抱える「実績不足による信用力の欠如」という課題に対応する仕組みとして非常によく設計されている。 公共調達を入り口としながら市場展開へつなげる流れが理にかなっている。 **・広域展開の評価** 自治体が予算化する際に必要となる根拠をあらかじめ整備するなど、横展開を進める上での工夫は重要な取組である。 県だけでなく複数自治体を巻き込んだスキームとなっており、事業の波及効果が大きい。 横展開を事業設計の段階から組み込んでいる点が優れている。 自治体間での普及が進むことで、スタートアップの成長を後押ししている。

民間活力を活用した職場の健康づくり支援 〈保健医療部〉	**・事業見直しの成果について** ハード支援からソフト支援への転換により、利用企業数・受講者数ともに大きく増加している。 KPI も事業内容に即したものへ変更されており、改善効果が分かりやすくなった。 **・健康づくりへの関心喚起について** 参加者の満足度や成功体験を広く発信すれば、より多くの人の健康づくりへの関心につながるのではないか。 健康寿命の延伸や医療費抑制といった効果にもつながる重要な取組である。 **・女性の健康課題への対応** 近年、女性活躍推進や女性特有の健康課題への関心が高まっている。企業のニーズを踏まえた研修メニューの充実も重要ではないか。 **・好事例の横展開について** 健康づくりの重要性を企業経営者に理解してもらうためには、健康経営による成果を示すことが重要である。 従業員の定着率向上や採用力向上など、経営面での効果を示せれば、企業の関心も高まる。 専門家による講義だけでなく、先進企業が実際に取り組んでいる事例を紹介することも有効ではないか。
外部委員会の運営に関する議論	・レビュー対象事業に関係する委員がいた場合は、その委員の意見は参考意見とする。 ・表彰を行う上で、「独自の取組を試みた点」が一番ハードルが高く、最も評価するべき点だと考える。 ・表彰制度の目的は単に優良事例を表彰することではなく、「優れた事業改善事例を県庁内へ横展開すること」にある。表彰事業が蓄積されてきているので、これまでの表彰事業から共通する成功要因を抽出すべき。 ・各事業そのものを評価するだけでなく、「なぜ改善が成功したのか」、「なぜ横展開が実現できたのか」を分析する必要がある。